

# フェーズフリー等促進検討会の開催について

---

令和8年6月

# 今後想定される地震・火山・水害等について

- 令和6年能登半島地震をはじめとするこれまでの災害対応においても、内閣府防災では、各省庁・自治体の応援を得ながら、組織を挙げて災害対応に当たってきたが、現在の体制では、その間、防災施策に係る企画立案業務は事実上中断せざるを得ないのが実情。
- 今後、更なる大規模な被害が予想される千島海溝地震、日本海溝地震や首都直下地震、南海トラフ巨大地震、富士山噴火などの大規模災害に備え、防災業務の企画立案機能を飛躍的に向上させ、平時から不断に万全の備えを行うことが必要不可欠。

## 東日本大震災

- ・死者数：19,787人
  - ・避難者数：最大47万人
  - ・全半壊家屋数：410,100棟
- <※R8.3.10 10:00時点>

## 令和6年能登半島地震

- ・死者数：698人
  - ・避難者数：最大5.7万人
  - ・全半壊家屋数：30,240棟
- <※R7.12.25 18:00時点>

## 平成30年7月豪雨

- ・死者数：237人
  - ・避難者数：最大4.2万人
  - ・全半壊家屋数：18,010棟
- <※H31.1.9時点>

## 平成28年熊本地震

- ・死者数：277人
  - ・避難者数：最大18万人
  - ・全半壊家屋数：43,386棟
- <※人的被害：R6.8.14時点>  
<※建物被害：H31.4.12時点>

## 千島海溝地震、日本海溝地震

- ・想定死者数：最大 約19.9万人
- ・想定避難者数：最大 約60万人
- ・想定全壊焼失棟数：最大 約22万棟

## 首都直下地震（都心南部直下地震）

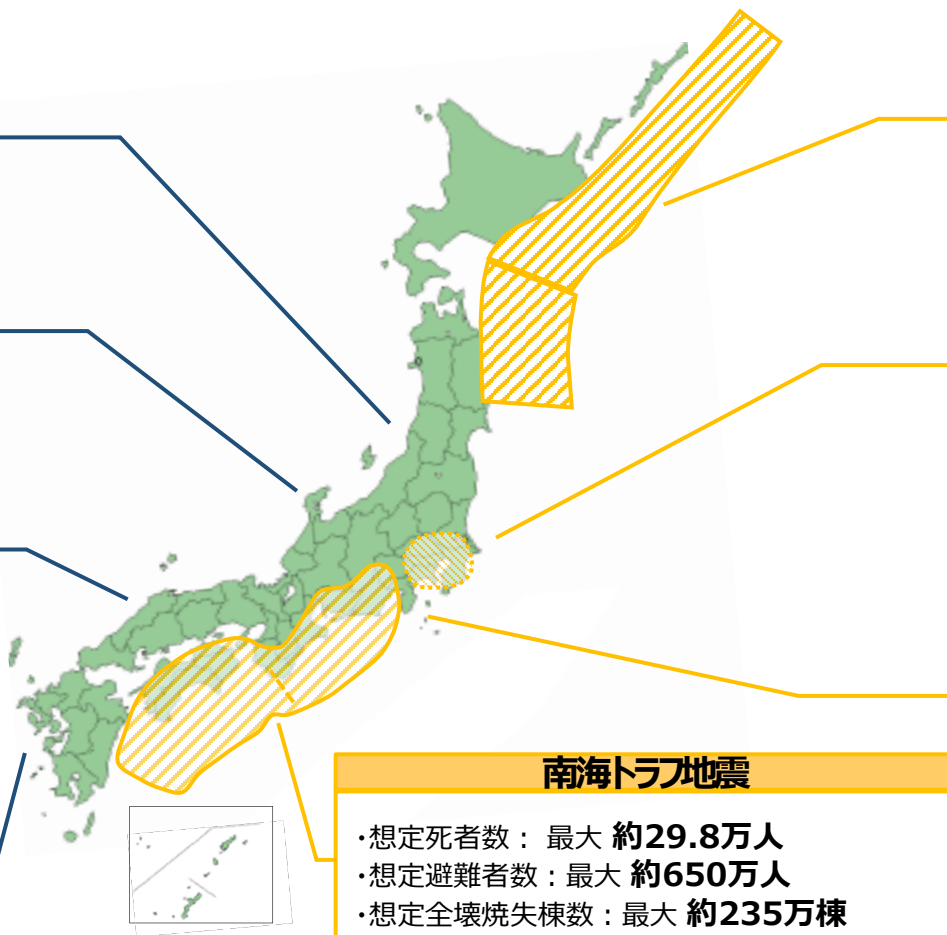
- ・想定死者数：最大 約1.8万人
- ・想定避難者数：最大 約410万人
- ・想定全壊焼失棟数：最大 約40万棟

## 富士山噴火

- 【溶岩流等】想定影響範囲内人口：約79万人
- 想定事前避難者数：約11万人
- 【火山灰】首都圏を含む広域に影響を及ぼすおそれ  
〔交通機能の麻痺やライフラインの機能停止、  
木造家屋の倒壊など〕

## 南海トラフ地震

- ・想定死者数：最大 約29.8万人
- ・想定避難者数：最大 約650万人
- ・想定全壊焼失棟数：最大 約235万棟



※避難者数は避難所避難者数を指す

# 防災庁設置の基本的な考え方

- 世界有数の災害大国である我が国において、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震、首都直下地震、南海トラフ地震や富士山噴火など国難級の災害の発生が切迫する中、人命・人権最優先の「防災立国」の実現が急務。
- 国難級の災害に対しても死傷者や避難者を大幅に低減させ、必要な国家・社会機能を維持するため、平時からの事前防災の徹底が必要。
- そのため、我が国の防災全体を俯瞰的に捉え、産官学民のあらゆる力を結集し、中長期的視点から我が国の防災の在り方を構想するとともに、徹底した事前防災、発災時から復旧・復興までの一貫した災害対応の司令塔となる組織として「防災庁」を設置。

## 防災庁の機能、果たすべき役割

### ○ 防災庁の機能

- 内閣直下に設置
- 総理を組織の長とし、総理を助ける防災大臣を配置
- 尊重義務を伴う各府省庁への勧告権等
- 災害対応力の強化に必要な予算・人員の確保
- 内閣府防災担当を発展的に改組  
※個別行政分野における防災対策等は引き続き各府省庁で実施

### ○ 防災庁の果たすべき役割 ～ 平時から発災時、復旧・復興までの一貫した司令塔機能 ～

#### I 防災に関する基本的政策・国家戦略の立案

- これまでの災害に対する中長期的視点を踏まえた定期的かつ十分な検証
- 多様な経験と高度な知見を基に、あらゆる事態を想定し、起こり得る被害を先読みした防災の基本政策・国家戦略の企画・立案

#### II 徹底的な「事前防災」の推進・加速の司令塔

- 各主体の連携による地域レベルでの具体的なシミュレーションに基づく災害リスク評価、計画企画・立案の推進
- 各主体による事前防災対策の抜けや漏れ把握、分野横断的な関係者間コーディネートや平時からの実施勧告等による事前防災の推進

〔・建物等の耐震化 ・防災まちづくりと復興の事前準備  
・スフィア基準等を踏まえた避難生活環境の抜本改善 等〕

#### III 発災時から復旧・復興までの災害対応の司令塔

- 政府災害対策本部の運営や国全体の被害状況把握など災害初動体制の構築
- 被災自治体への迅速な応援体制の構築
- 被災自治体のワンストップ窓口として被災者のニーズを俯瞰的に把握
- 過去の災害のノウハウをいかした継続的・包括的な被災地伴走支援体制の構築

# 防災庁の果たす役割

## 大規模災害に対する事前防災の推進

- 各主体の連携による地域レベルでの具体的なシミュレーションに基づく災害リスク評価、計画企画・立案の推進
- 事前防災対策の進捗状況や抜けや漏れの把握
- 協定締結の促進など、民間企業の地域防災への参画を促す取組の推進

## 円滑かつ迅速な災害緊急事態対処

- 初動体制や被災自治体への迅速な応援体制の構築
- デジタル技術活用による迅速な被害状況把握
- 首長の意思決定支援、対応手順の標準化
- 災害時の船舶を活用した医療提供体制整備

## 早期の復旧・より良い復興の実現

- 被災自治体のワンストップ窓口、継続的・包括的な被災地支援
- 事前復興の概念を踏まえた復興に関する対応方針検討

## 被災者に寄り添った支援体制の構築

- 備蓄強化などスフィア基準等を踏まえた避難生活環境の抜本改善
- 女性・高齢者・子ども・障害者・外国人等の多様な視点等を取り入れた支援の充実
- 災害ケースマネジメント実施体制の構築
- 災害救助法適用等に係る事務、被災者生活再建支援制度の運用
- 新物資システム(B-PLo)の活用等を通じた物資支援体制の構築の推進
- 国民保護における救援に係る制度運用、訓練の実施
- 感染症危機や原子力災害との複合に備えたノウハウの共有、訓練等の実施

## デジタル防災技術の徹底活用

- 災害対応の高度化・効率化に向けたデジタル防災技術の活用基盤・環境整備
- 新総合防災情報システム(SOBO-WEB)を中核とした「防災デジタルプラットフォーム」の強化・利活用
- 災害対応に精通したデジタル人材の育成・派遣

## 国民の行動変容を促す普及啓発・防災教育

- 総合的・戦略的なコミュニケーションデザインの検討
- 幼児期からの実践的な防災教育
- 地域が一体となったコミュニティ防災教育の推進
- 災害の記録・課題・教訓の継承等

## 戦略的な防災情報発信

- 防災行動変容を促す情報発信のための基盤技術の構築
- 地域レベルでの報道機関を含むメディアとの連携による適時・的確かつ戦略的な防災情報発信

## 産官学民連携体制の構築

- 産官学民それぞれの災害対応力強化
- 都道府県等とのカウンターパートとなる職員を通じた地方自治体との連携体制の強化
- 災害支援に関わるNPO等との協働強化と参画拡大
- 産官学民関係者同士での平時から顔の見える関係等の連携体制構築

## 体系的な人材育成システムの充実・強化

- 関係機関と連携した実践的な訓練等の推進
- 防災に関する幅広い経験や専門知識、関係者間のコーディネート力を有する行政職員や民間人材など体系的な育成

## 防災技術の研究開発・実装、防災産業の発展

- 防災に関する新技術ニーズ・シーズの把握・統合
- 被害想定的高度化やAIの活用、災害救助・対応ロボットの開発など関係機関連携による防災技術の研究開発・実装の推進
- 防災技術・ノウハウを活用した防災産業の発展

## 国際防災協力の推進

- 災害の経験・課題・教訓や知見・ノウハウの国際展開など、国際防災の議論と枠組みづくりの主導
- 防災関連企業・防災技術の海外展開による国際社会との連携強化

## 防災教育を第3次学校安全推進計画の柱に位置付け

～全ての子どもが災害から生命を守る能力を身に付けられる防災教育の全国展開～

### 現状・課題

- ・地域特有の防災課題に応じた避難訓練を実施する小・中学校は3割未満。避難訓練内容の形骸化も見られる
- ・正常性バイアス等の必要な防災知識が教えられているのか、教育内容の詳細を確認できていない
- ・義務教育を終えた時に全ての生徒が災害から生命を守る能力を身に付けている保証は何らない

- ・学校では防災教育に十分な時間・人材を充てられない
- ・防災教育への保護者の関心が高く、比較的柔軟な現場対応が可能な幼保段階の防災教育の充実が求められる
- ・防災教育に当たり、地域と学校の一層の連携が必要

- ・子どもの成長に重要な非認知能力※の育成に効果的な防災教育が十分に認識されていない

- ・大人になるほど、正常性バイアス等により防災意識が低下

※「非認知能力」

意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、自制心、創造性、コミュニケーション能力といった、測定できない個人の特性による能力。学力(認知能力)と対照して用いられる。

第3次学校安全の推進に  
関する計画の策定  
(R3年度末)

### 政策の方向性

- ・全ての小・中学校で、地域の災害リスクや正常性バイアス等の必要な知識を教える実践的な防災教育や避難訓練を実施
- ・全国の小・中学校における定期的な防災教育の実施内容を調査、公表
- ・現職教員に加え教職課程の学生にも防災教育の指導法を教授

- ・地域と学校が連携した防災教育を支援する防災教育コーディネーター(仮称)を育成  
※コミュニティ・スクールや地域学校協働活動などの学校と地域の連携・協働体制の仕組みの活用等
- ・幼保の段階から小、中、高とシームレスな防災教育を実施

### 防災教育の幅広い効果

- 全ての子どもたちが災害時に自らの生命を守ることができる

(例：自分が主人公の発災シナリオを作成する「防災小説」の取り組みを通じ、災害を自分事化)

さらに

- ・主体的・内発的に避難する態度、他人を思いやる態度を育てる  
⇒ 非認知能力、生きる力を育成
- ・地域住民の防災活動、地域の自然の恵み・災いを教える  
⇒ 郷土愛、地域を担う意識を育成
- ・子どもと共に地域の大人が防災を学ぶ  
⇒ 大人が心を動かされ、主体的に生命を守る防災意識を涵養

# 内閣府(防災担当)の取組

～コミュニティ防災教育の推進～

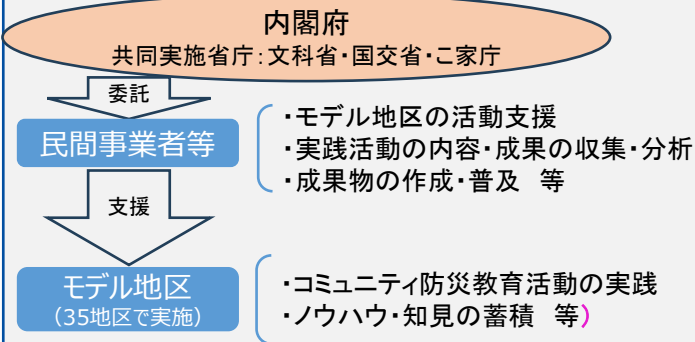
## 現状・課題

- 将来的に発災が危惧される巨大地震等の自然災害に備えて、事前防災の強化の観点から、防災教育を通じたコミュニティでの自助・共助による防災力の強化が喫緊の課題。また、地域の多世代が一体となり、互いに助け合う心を持ち、共助の力を高めていくことが必要不可欠であるが、これまでの取組は、個人や個別団体の成長に資する防災教育活動支援に留まっている。
- このため、学校教育などの限られた機会だけでは、幅広い世代への防災教育の展開が十分ではないことから、対象を学校教育を含む地域全体(コミュニティ)へ広げていくことが必要不可欠。

## 事業内容

- 地域住民・団体等と教育機関、地元企業等が連携して地域全体(コミュニティ)による防災教育活動を推進し、優良事例の形成・蓄積、横展開のための事業を実施。

### 実施スキーム



### モデル地区



大学等を含む学校、保育所や認定こども園、公民館、コミュニティセンター、地元企業、NPO法人、自主防災組織、地域サークル団体などの連携体により実践

#### <実践活動の例>

- ・大人と子どもが参加する防災学習会等の実施
- ・子どもや住民が防災ボランティア活動へ参加
- ・未就学児を対象とした防災教育の実践活動
- ・防災教育コーディネーターの育成に資する取組
- ・災害教訓継承活動など、実践的な防災意識の向上 等



コミュニティ防災教育活動の実践  
(様々な人々と繋がって取り組む)

### 成果物

優良事例集、防災教育手引き(ノウハウ集)  
普及用コンテンツの作成 等

#### <成果物の普及>

- ・シンポジウムの開催(学術研究団体等と連携)・学校や公民館等への配布
- ・防災推進国民大会(ぼうさいこくたい)等における情報発信 等

#### <効果検証・改善(R8以降)>

- ・成果物を活用した実践活動の継続的实施による、成果物のブラッシュアップ

## 効果

地域住民の防災意識の向上  
地域防災力の向上



子どもたちの、人を思いやる心、人を  
助ける心を育むことにつながる



地域と学校が連携することで、学校や  
教員の負担を軽減することができる



## <コミュニティ防災教育実践活動事例集・コミュニティ防災教育の実践に関する手引き>

- 令和7年度「コミュニティ防災教育推進事業」における実践事例を「コミュニティ防災教育実践活動事例集」として紹介
- 多様な実践事例から得られたノウハウや知見を、「コミュニティ防災教育実践に関する手引き」として分かりやすく整理し、公開。

コミュニティ防災教育推進事業のサイト



コミュニティ防災教育実践に関する手引き



コミュニティ防災教育実践活動事例集



## コミュニティ防災教育 実践活動事例集

令和8年3月 内閣府 (防災担当)



幼児の揺れ体験

簡易トイレ設置タイムトライアル



小学1・2年生の水消火器体験

## コミュニティ防災教育 実践に関する手引き

令和8年3月 内閣府 (防災担当)



担架を使用した防災運動会の種目



幼児の揺れ体験



小学1・2年生の水消火器体験

簡易トイレ設置タイムトライアル

# 内閣府(防災担当)の取組 ～TEAM防災日本の概要～

- TEAM防災日本は、内閣府と協力して、全国各地で活躍する多様な防災の担い手を育成・応援するための人材ネットワーク。防災の担い手にとって有用なコミュニティや企業等による共助の防災活動等に関する情報をポータルサイトやSNS等で紹介。オンラインも活用して、学習会の実施や参加者の交流・情報交換を促進。
- ぼうさいこくたいでは、内閣府と連携して、出展者等の交流を図るための「大交流会」や「会場ツアー」を開催。

## ポータルサイト



# つながる力が、 未来を守る

-TEAM防災日本とは-

内閣府と連携して、全国各地で活躍する多様な防災の担い手を育成・応援するための人材ネットワークです。

防災教育チャレンジプランはこちら

<https://bosaijapan.jp/>

## メールマガジン・SNS

- 全国の防災の担い手に向けて、コミュニティや企業等による防災活動等に関する情報を定期的に発信するメールマガジンを発行（登録者：約1,300人）
- SNS（Facebook、Twitter）でもセレクトした情報を発信。

## ぼうさいこくたいでの多様な防災の担い手との交流

- ぼうさいこくたい2025（新潟）での「大交流会」の開催  
ぼうさいこくたい2025において、内閣府と連携して、出展者等が交流や情報交換を行うための「大交流会」を開催し、127団体が現地参加。
- ぼうさいこくたい2025での「オリジナルセッション」の開催  
ぼうさいこくたい2025では、内閣府と連携して、注目度の高い3つのテーマによる「オリジナルセッション」を開催。  
セッション「ジェンダー視点による被災者支援の意義と実際 ～男女共同参画センターの活動及び多様な主体の連携の視点から考える～」



## アドバイザー

- |                              |                   |
|------------------------------|-------------------|
| 鍵屋 一（跡見学園女子大学教授）             | 阪本 真由美（兵庫県立大学）    |
| 中川 和之（時事通信社客員解説委員）           | 臼田 裕一郎（防災科学技術研究所） |
| 福和 伸夫（名古屋大学名誉教授）             |                   |
| 加藤 孝明（東京大学教授）                |                   |
| 浅野 幸子（減災と男女共同参画研修推進センター共同代表） |                   |

# 内閣府(防災担当)の取組

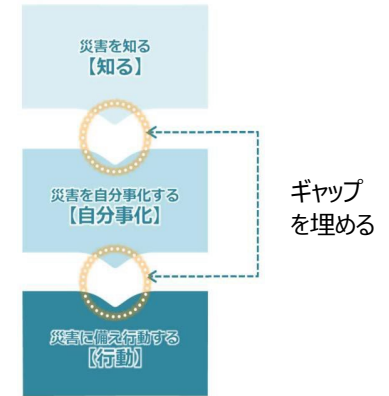
## ～「NIPPON防災資産」の認定制度の概要～

### 背景

- 近年、全国各地での災害の激甚化・頻発化しているが、普段、災害を具体的にイメージすることは難しい。災害が起きてから、「まさか自分が被災者になるとは・・・」という声が発せられるなど、多くの人にとって、災害リスクを自分の事としてとらえていない。
- 一方で、「津波てんでんこ」など、伝承の取組により、命が救われた事例もある。

### 災害リスクの自分事化に向けて

- 内閣府と国土交通省では、地域で発生した災害の状況を分かりやすく伝える施設や、語り部といった災害の教訓を伝承する活動※などを、「NIPPON防災資産」(以下、「防災資産」という。)として認定する制度を、令和6年5月に創設。  
※活動：語り部、防災に係る催事、防災ツアー等
- 認定された防災資産を通じて、住民の方々が過去の災害の教訓や今後の備えを理解することで、「災害リスクを自分事化」し、「主体的な避難行動」や地域に貢献する防災行動につなげる。



### 内閣府特命担当大臣(防災担当)、国土交通大臣による認定

○全国の流域治水協議会や火山防災協議会等により推薦される候補案件を対象に、有識者による選定委員会での審議を経て、内閣府特命担当大臣(防災)及び国土交通大臣が「優良認定」・「認定」案件を認定

- 令和6年度には、優良認定11件、認定11件を認定、令和7年度は、優良認定6件、認定4件が認定され、優良認定案件については、内閣府、国土交通省主催により認定式を開催、両大臣より認定証が授与された。また認定案件については、国土交通省の各地方整備局等にて、認定書の授与がなされた。



第2回認定式の様子

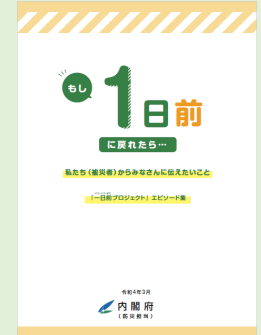


「安否札づくり」ワークショップ

内閣府では、国民一人ひとりが日頃から災害に備えることの大切さを学び、災害時に自らの判断で適切に行動できるよう、啓発用パンフレットや啓発動画等を作成・提供するなど、国民の防災意識向上に向けた取組を実施するとともに、防災の重要性等について直接国民に働きかける国民運動（行事等）を展開。

### 【普及啓発パンフレット等】

- 「みんなで減災」(R4)
- 「もし、一日前に戻れたら…『一日前プロジェクト』エピソード集」(H20.3～)
- 広報誌ぼうさい (H13.1～)
- 「東日本大震災の教訓を未来へ～いのちを守る防災教育の挑戦～」(R2.1)



「いのちを守る防災教育」を語る釜石中学生

### 【防災に関する国民運動の展開】

- 防災推進国民大会（ぼうさいこくたい）の開催（H28～）
- 津波防災・火山防災に関する普及啓発

## <世代別（こども向け、大人向け、高齢者向け）「事前防災普及啓発動画」>

### 【防災について考えるきっかけとなる啓発動画】

(大人向け) 防災アイテム編

※安全確認編、家の中の安全編も作成

<https://youtu.be/L1IX0DrYZns?si=f08d0W5RGsMj-mOV>

#### コンテンツ概要

防災に係る1本3分程度の普及啓発動画

こども、大人、高齢者など世代別に制作

災害時の行動を“事前”に考えるためのコンテンツ

#### コンテンツの目的

自助、共助、公助に対する意識の醸成

災害発生前の準備行動（事前防災）の浸透

正常性バイアスの打破と“自分事化”の促進



(こども向け：左下)

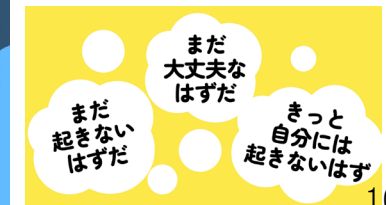
<https://youtu.be/dwchAhv1shA?si=16m6Ce70hx3dP69>

(高齢者向け：右下)

<https://youtu.be/wUNfe5mfeCE?si=4NMrpQnuuKK7mwsn>

#### 【コンテンツの特徴】

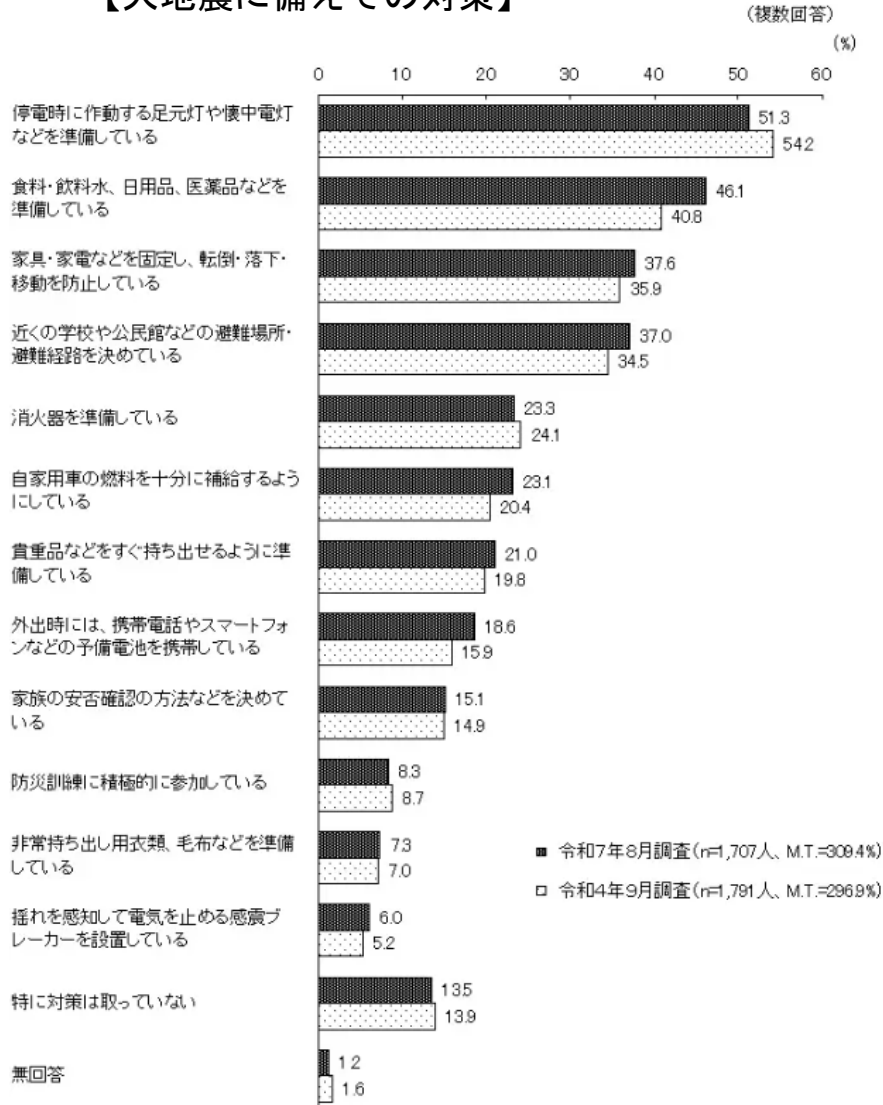
- 世代別による設計（理解度・関心に合わせた構成）
- 短時間（約3分）で理解できる設計
- モーショングラフィックスによる直感理解
- 防災を「知識」から「行動」へ転換



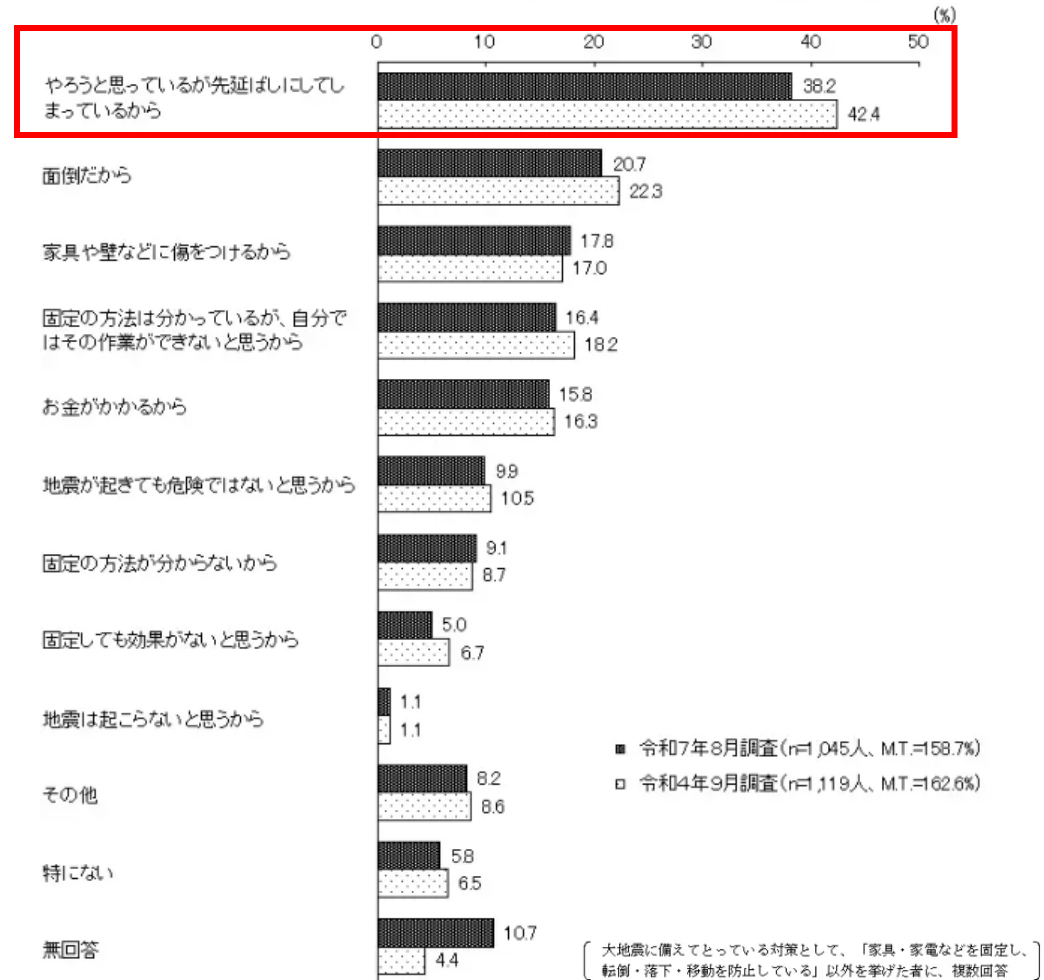
# 国民の防災に対する備えの現状

○これまでの取組により防災の備えは一定程度進んでいるところ。  
○一方、家具の固定など取組を先延ばしにしている国民も多い。

## 【大地震に備えての対策】



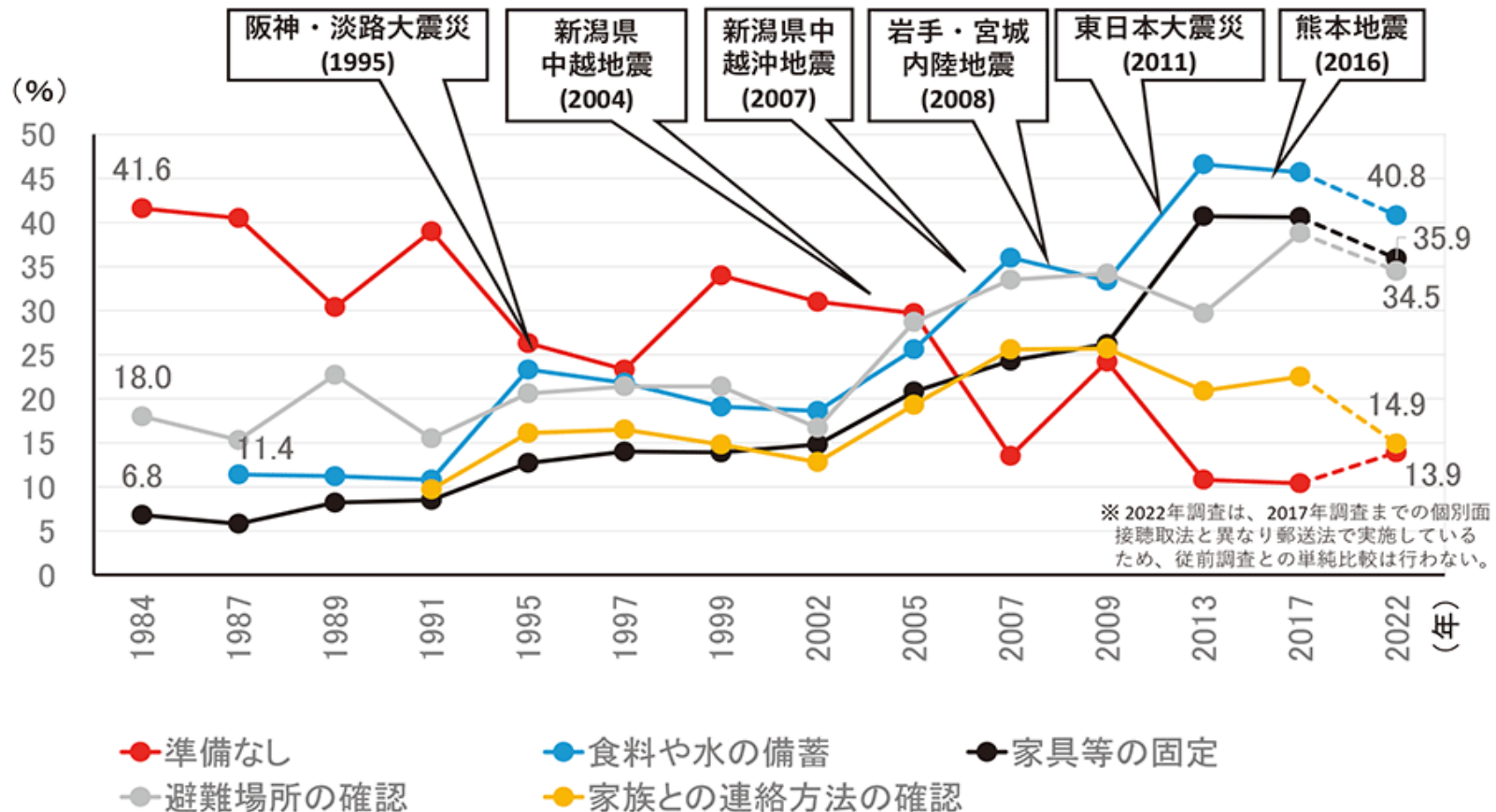
## 【家具・家電の固定ができていない理由】



# 国民の防災に対する備えの現状

○ 自助の重要性の認識や具体的な対策を講ずる動きは、阪神・淡路大震災、東日本大震災といった大災害を経て、着実に国民の間に浸透しているにもかかわらず、自助の取組の実施率は頭打ち傾向にある。

大地震に備えた自助の取組に係る選択率の推移（防災に関する世論調査）



## 現状

- これまでの、防災教育や訓練、広報施策など様々な取組により、災害への備えは一定程度効果がでていますが、自助の取り組みは頭打ちの傾向。
- 災害への備えの必要性を認識されているものの、具体的な行動に至っていない層が一定層存在することから、負担感を軽減しつつ、日常生活の延長として自然に防災行動が促されるような取り組みが求められている。



## 検討の方向性

- 意識向上だけでは限界があり、行動を引き出す環境設計が必要
- フェーズフリーの考えを浸透させることにより、防災の取組が特別なものではなく、日常の延長として実践される社会の実現するため、以下に向けた取り組みを推進してはどうか
  - ・ 防災への心理的ハードルを低減し、社会全体で防災行動が当たり前になる機運の醸成
  - ・ 様々な主体が防災対応を広めるプレイヤーになり得ることなど、防災に対する気づきの喚起
  - ・ フェーズフリーの考えを仕様に溶け込ませるなど、社会環境を変えることにより災害に強い社会の実現（施設設計の配慮、家具購入時に家具固定を標準化する など）

# 「災害への備え」を行動に移さない要因

日常と防災を分けて考えていることが要因の1つではないか

- ・めんどくさい
- ・お金がかかる
- ・考えたくない



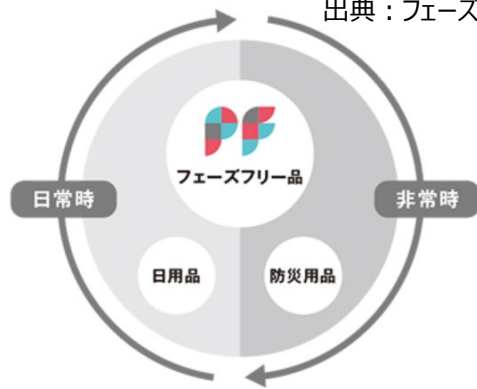
- ・なんとかなる
- ・忙しい
- ・うちは大丈夫

防災と日常を分けず、**日常と災害時の区別をなくし、どちらにも役立つ仕組み**ができれば、災害時においても、特別な判断や行動を求められることなく、自然に命を守る行動がとれる社会につながる可能性がある

# 防災を日常に溶け込ませるための手段の例

## フェーズフリー

出典：フェーズフリー協会公式HP



日常と非常時の境界を分けない

## 人との関わり

例) 保健師の活用

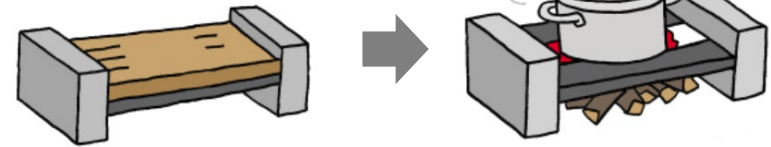


保健師や隣近所など地域の関係性による相互支援

## デュアルユース

日常

非常時



例) かまどベンチ

用途の「二重化」

## ナッジ

例) タクシー駐停車マナー改善



出典：自治体ナッジシェアWebサイト

より良い行動を自発的にとれるよう促す手法

# 内閣府防災における現在の取組

- 民間企業・行政などあらゆる主体がそれぞれ防災に関する情報を発信する際に「#防災を日常に」のハッシュタグをつけて投稿する取組を実施

## <民間企業による国民の防災対応を促す取組の例>

MIZUNO JP (ミズノ株式会社) 4月15日  
おはようございます☀  
週の真ん中すいようびです👏

新生活、少しずつ慣れてきたでしょうか😊  
そんな時こそ、防災について見つめ直すいい機会👀

環境が変わった時こそ、備えは万全に。  
昨年 #公式たちの防災2025 として開催したイベントの学びを、改めて皆さんに共有します。

**#防災を日常に**

MIZUNO JP (ミ... 2025年03月06日  
最後は、ご参加頂いた企業の皆さまの防災アイテムが大集合📸👏


それぞれの #防災 への取り組みや、防災アイテムのご紹介を頂き学びになりました👏...



セブン-イレブン・ジャパン @... 3月11日  
＼#セブンの豆知識／

セブン-イレブンは内閣府の **#防災を日常に** プロジェクトに賛同し、#ローリングストックの普及に努めています。

カセットコンロやボンベ、水とともに、乾麺の Pasta、うどん、レトルトごはんなどのローリングストックを始めてみませんか？



内閣府防災 @CAO\_BOUSAI 2月20日  
「日常」も、「災害時」も、もっと良くしたい！  
日頃からの取組がいざというときに役に立つ。...

- ・備蓄：ローリングストックの推進
- ・要員の確保
- ・感染ブレイクの防止
- ・避難の円滑化
- ・津波避難ルート確認、訓練の準備

大東建託株式会社【公... @kentaku\_co\_jp  
フォローする

家具の固定、後回しにしていませんか？

【自宅の防災シリーズ Vol.07】では、住まいの安全対策と防災グッズを解説💡

災害時に「あの時やっておけば」と後悔しないために。  
今日、ご自宅の安全を再点検しましょう。  
[kentaku-eyes.com/article/202605...](http://kentaku-eyes.com/article/202605...)

**#防災 #防災を日常に**  
**#ケンタクアイ**



住まいの備えと  
防災グッズ  
自宅の防災シリーズ

備え種  
[kentaku-eyes.com](http://kentaku-eyes.com)

# 内閣府防災における現在の取組 ～「防災を日常に」を目指した情報発信サイト～

- 近所を散歩することや、お買い得品を余分に買うことなど、日常の何気ない行動が防災につながっていることをwebで紹介

**それは  
実は  
防災  
なんです。**

日常の何気ない行動が実は防災に。もしものために  
手軽で身近なことから、防災はじめてみませんか。



# 各省の取組事例

## 農林水産省 食料安全保障室

### 家庭備蓄の推進に係る農林水産省における取組

農林水産省では、災害発生時における食料安定供給確保のための備えの強化に向け、食品を備蓄する家庭の割合を増加させるための取組を実施。

#### 【最近の主な取組】

##### 1. パンフレットの配布

パンフレット3種類（一般向け、要配慮者向け、単身者向け）を希望する者に配布。地域や学校における防災イベント等で利用されている。  
[近年の配布実績：R5年度 4.5万部、R6年度 11.4万部、R7年度（3月まで）13.5万部]

##### 2. 動画広告の配信

動画広告4本（①どうして備蓄するの？②どうやって備蓄するの？③なにを備蓄するの？④①～③の統合版）をYouTubeや農林水産省ホームページ等で配信（R6.4から）。YouTube（maff channel）における4本の累計視聴回数：85.1万回]

##### 3. 民間企業等との連携

日本フランチャイズチェーン協会（コンビニ7社）と連携した情報発信（コンビニレジ横のサイネージやX等を活用）、特設サイトで民間企業等22社とローリングストックについて共同PR、通信販売業者と連携したバナー広告作成、小売業者への広告素材提供。

##### 4. その他

駅広告（首都圏JR等29駅（R7.9.16～30））、マグネットやステッカーの作成、家庭備蓄の市場拡大に寄与する製品の表彰、食に関するイベントでの講演、aff（農林水産省広報誌）での紹介。



パンフレット（一般向け）



パンフレット（要配慮者向け）



動画広告②「どうやって備蓄するの？」



レジサイネージ（コンビニエンスストア）



駅広告



マグネット  
ステッカー

# 各省の取組事例

## ＜ペットの災害対策関連のフェーズフリー事例＞ 環境省

- ペット用のケージを、普段からペットの寝床として使用。災害時にペット同行避難する際にはケージでの飼育が必須だが、慣れていないとストレスから吠えたりしてトラブルの原因になる。
- **普段から寝床として使うことで、災害時の同行避難のハードルを下げることが期待される。**

### 能登半島地震における、一時預かり施設でのケージでの飼養の例



### 災害が起こったら… ～あなたはAさん？ Bさん？～

ペットとの同行避難の状況は、日頃の備えで大きく変わります。  
Aさん、Bさん、2人を例に災害発生からの1週間を見ていきましょう。

#### 日頃の備え

#### ペットのしつけと健康管理

**Aさんの場合**

ペットを飼い始めたAさんは、獣医師のアドバイスで、必要なワクチン接種や、寄生虫を駆除し、「待て」、「おすわり」等の最低限のしつけと、万が一に備えてケージに慣らす訓練をしていました。

- 最低ワクチン
- ノミやダニなど体毛寄生虫の駆除や予防
- オシオリア 目の予防
- 狂犬病予防接種 (犬の場合)
- なるべく目める

**Bさんの場合**

ペットを飼い始めたBさんは、ワクチン接種や寄生虫を駆除しようか悩みましたが、忙しかったので後回しにしていた。また、「待て」、「おすわり」等の最低限のしつけはしていましたが、ケージに慣らす必要はないと考え、訓練していませんでした。

※狂犬病予防接種は毎年1回行う必要があります。

災害、あなたとペットは大丈夫？  
人とペットの災害対策ガイドライン  
＜一般飼い主編＞より

# 民間企業での取組事例

- 民間企業においても、日常の延長に防災の取組を溶け込ませる取組が進んでいる。
- こうした民間企業による取組が進むことで、社会全体の防災力の向上が期待される。



商品やサービスが「フェーズフリー」の考え方に基づいてデザインされていることを**一般社団法人フェーズフリー協会**が**審査・証明する制度**

フェーズフリー認証制度  
(一般社団法人フェーズフリー協会)



突然訪れる「もしも」に備えて、いざという時に役立つ防災の基礎知識や避難生活に役立つ情報を紹介するとともに、災害時にも役立つ商品を紹介。

そなえーる  
(花王株式会社)



ちょっと意識を変えるだけで、**日常の行動が備え**となり、もしもの時の安全安心につながるという点に着目し、日常で取り組みやすいアクションを提示することで防災備蓄のハードルを下げ、行動を促す取組

ちょ備蓄  
(サントリービバレッジ&フード株式会社)



日常の延長線上に起こる「もしも」にも頼れる商品として、普段使いになじむデザインと、手頃な価格でありながら、防水・耐久・グリップ性能に優れ、「日常防災」にぴったりのシューズ等を紹介。

ワークマンだからできる日常防災  
(株式会社ワークマン)

# フェーズフリー等促進に向けた今後の方向性

現在、各省庁や民間企業がそれぞれフェーズフリーなどに取り組んでいるが、社会を変革していくためには以下について取り組む必要があるのではないか

## ・共通ビジョンの設定

→官民で「防災を日常に溶け込ませる」という目指す姿を共有し、単なる防災施策ではなく、社会変革の方向性として位置づける必要があるのではないか

## ・用語・概念の標準化

→用語の定義や範囲をある程度明確化し、ブレのない理解の醸成を図るべきではないか

## ・成功事例の可視化

→先行事例を整理し、わかりやすく発信することで行動開始の障壁を下げるべきではないか

## ・分野横断的な連携体制の構築

→防災部局に限らず、官民間問わず、あらゆる分野と連携し、横断的に取り組みを推進する

以下の観点等についてご意見をいただきたい

- ・フェーズフリーの理念を具体的に社会実装するにあたっての留意点
- ・官民の役割分担、連携のありかた
- ・防災行動を社会経済活動にビルトインするための方策
- ・その他